

節電にご協力下さい。

県では、現在、東日本大震災による被害対策に全力を尽くしているところですが、一日も早い復興に向けて、県民の皆様にお願ひがあります。

今回の震災については、私たち茨城県民も多大な被害を受けておりますが、その中にあっても私たち一人ひとりがすぐに支援・協力できることはたくさんあります。

その一つが「節電」です。

今回の地震により、電力需給のバランスが極めて厳しい状況にあります。家庭や事業所で県民一人ひとりが最大限の節電の努力をすることが、安定した電力の供給と今後の復興につながります。

県としても率先して一層の節電に取り組んでまいりますが、県民の皆様におかれましても積極的な節電にご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

平成 23 年 4 月 1 日

茨城県災害対策本部長

茨城県知事 橋本 昌

【節電対策の例】

春季の電力需要パターンでは、別添「電力需要ピークのカットについて」のとおり、朝・夕の2回に電力需要のピーク時があることから、その時間帯での節電対策が必要となっています。

そこで特にこれらの時間帯での節電に留意されて、例えば、次のような取組にご協力をお願いします。

空調

- 空調機器の使用は、朝・夕のピーク時間帯を避ける。
- 暖房は19℃以下を目安に現在の設定より低くする。
- 暖房機器は不必要なつけっぱなしをせず、運転時間を短縮する。
- 暖房効果を高める工夫をする。
 - ・エアコンのフィルタの清掃
 - ・ウォームビズ（暖かい服装をする）
 - ・夜間におけるブラインド・カーテンの使用

電気機器

- パソコン機器やテレビの使用をできるだけ控える。特に朝・夕のピーク時間帯の使用を控え、他の時間帯での使用を心がける。
 - ・パソコンは、長時間席を離れる、使用しない場合には、こまめにシャットダウンあるいはシステムスタンバイ機能を使用する。
 - ・プリンター、コピー機等は必要最小限のもの以外は電源を切る。
 - ・誰も見ていないテレビはスイッチを切る。
- 炊飯器、洗濯機、衣類乾燥機は、朝・夕のピーク時間帯を避けて、タイマー機能を活用することなどにより、夜間や早朝の使用に心がける。
- 冷蔵庫の庫内は季節にあわせて温度調整をし、効率的に使用する。
 - ・詰め込みすぎない
 - ・冷蔵強度を適切に（強→中）
 - ・無駄な開閉をやめる
- 給湯器、電気ポット、コーヒーマーカー、電子レンジの電源を切り、コンセントを抜き、待機時消費電力を削減する。

照明

- 人のいない部屋の照明は、可能な限り消灯する。
 - ・夜間：安全確保のための最小限の照明に制限
 - ・建物外側の照明設備の消灯
- 照明は、省エネルギー型の蛍光灯や電球形蛍光ランプ、LED を使用する。

トイレ

- 温水洗浄便座のふたを閉める。
- 手洗い用電気給湯器の電源を切る、あるいは、タイマー機能を使用する。

その他

- 電気機器等の導入は、省エネルギータイプのものを選択する。
- 食事等の団らんは居間等集まって生活。

以上のお願いは、今回の震災で大きな被害を受けた被災者の皆様など取組が困難な方に無理にお願いするものではありません。

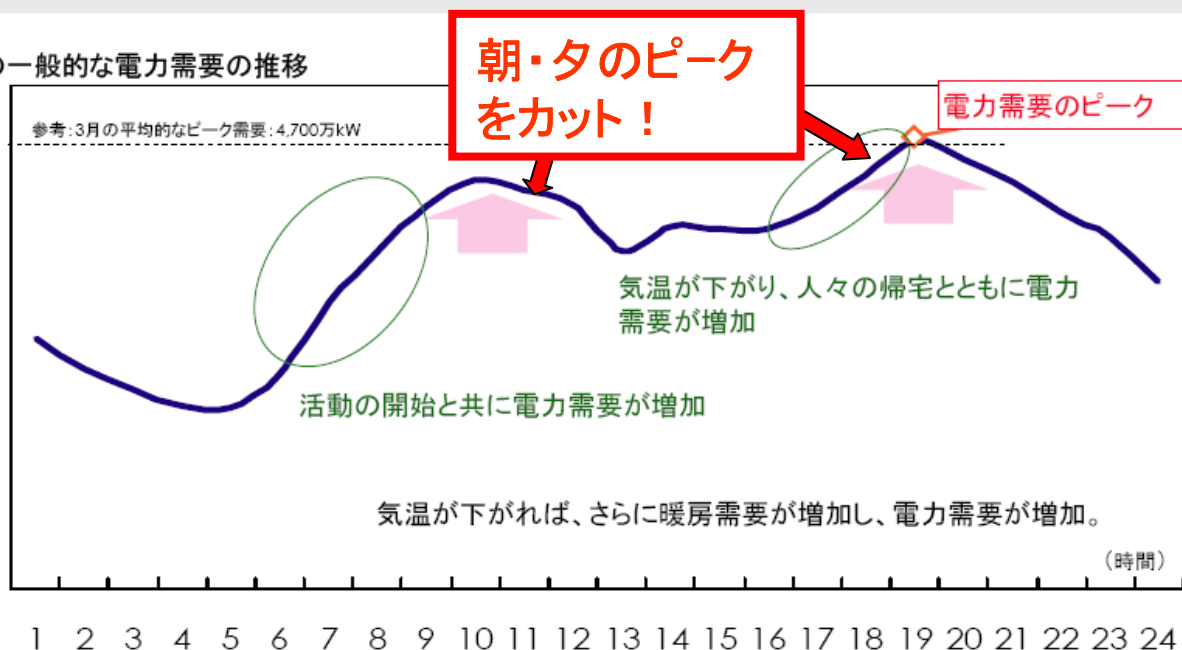
県といたしましては、震災からの早期復興に向け、引き続き全力で取り組んでまいりますので、県民の皆様の御理解御協力をよろしくお願い申し上げます。

電力需要ピークのカットについて

1 一般的な電力需要のパターン(春季:3月の例)

- 暖房や照明などが増加する夕方から夜にかけて、電力需要のピークが発生
- 気温が下がれば、さらに暖房需要が増加し、電力需要のピークが大きくなる

3月の一般的な電力需要の推移



2 一般的な電力需要のパターン(夏季:7月の例)

- 冷房需要が増加する昼間(特に13時~16時)に電力需要のピークが発生
- 気温が上昇すれば、さらに冷房需要が増加し、電力需要のピークが大きくなる

7月の一般的な電力需要の推移

